

## 第55回全国新聞教育研究大会

北海道十勝帯広大会

基 調 提 案

大会主題 「新しい教育課程を創造する新聞教育」

～思考力・判断力・表現力などを育成する授業づくり～

### 1 新聞教育と新学習指導要領完全実施

新学習指導要領は、平成23年度から小学校で、中学校では平成24年度から完全実施となった。

「生きる力」の理念は①質の高い学力の定着・維持・向上、②豊かな心の涵養、③健やかな体の育成、と示されている。その中で質の高い学力の定着・維持・向上とは、基本的・基本的な知識・技能の確実な習得、それらを活用して課題を解決できるようにするための思考力・判断力・表現力等の育成（活用力・応用力・問題解決能力）、学習に主体的に取り組む態度の育成（学習意欲）を実現することである。

「思考力・判断力・表現力」を育成するために各教科において「言語活動の充実」が重視され、その一つの手段として新聞の活用が目ざされている。単に知る・わかるだけでなく、その背景を考え、それに対する自分なりの意見を持ち、それを表現しながら社会への参画を考えていく力が、新聞教育によって育まれると考える。この背景には、「キー・コンピテンシー（主要能力）」が国際標準の学力として認知されたことがある。また、新聞にあるグラフや図を使い、内容を読み取ることが、思考力・判断力・表現力の向上に役立つこと、情報リテラシーの育成に新聞教育が有効であることも注目されている。

本研究大会では、これらのことを念頭に言語活動の充実と新聞の良さをしっかりと活かせるような実践を積み上げ、新聞教育の充実と発展を進めていきたいと考える。

### 2 北海道十勝新聞教育研究会の取組と新聞教育の課題

北海道十勝新聞教育研究会は、第38回全国新聞教育研究大会・北海道帯広大会において、新聞教育を①新聞活用学習、②新聞づくり、③新聞機能学習の3つの類型ととらえ、相互の関連を重視して研究を進めてきた。新聞記事を教材とすることで、子どもの目を社会に向け、その速報性、信頼性、多面性などにより授業の活性化を図る取組を行ってきた。また、新聞づくりを通して社会事象に対する関心を高め、自分の考えをまとめ、相手を意識して表現することにも取組んできた。そうした、活動の過程で新聞をはじめとするマスコミの倫理についても取組んできた。さらに、第48回全国新聞教育研究大会・北海道十勝帯広大会において、この類型相互の統合や連携を持った実践を報告するとともにメディア・

リテラシーの基盤作りとして「新聞機能学習」の重要性を指摘した。

今回、さらに今日的な新聞教育の具体的な実践では、①学校の新聞教育を家庭に波及させ、学校・家庭・地域の連携を意識した「ファミリー・フォーカス」の取組、②指導時数をコンパクトに納め、小学校低学年でも無理なく取組める「はがき新聞」の作成、③小・中学生が個人で容易に情報送受信ができる端末普及による更なる「情報リテラシー」の指導、など新たな学習が展開され、より一層、類型相互の連携と相乗効果が進んでいると思われる。

そういう状況を踏まえ、本研究会では、新聞教育を推進する上で抱える課題と魅力ある授業像について論議を重ねてきた。その中の課題として、①授業公開が特定の校種や教科に偏るなどの特殊性が見られること。②授業に適した記事を押さえておくことが難しい、教育課程への位置付けが不明確などの教育課程編成上の課題があること。③場合により、新聞教育のための授業に陥りやすいという傾向があること。④児童が記事の読み取りに苦労する等の場面が見られること。⑤新聞（記事）が児童生徒にとって身近でない場合は教材として説得力が弱くなる傾向にあること。などが挙げられた。

### 3 課題解決のための新聞教育授業像

本研究会では、授業実践を進めるにあたり、先にふれた新聞教育の課題を踏まえた上で『目指す授業像』とは何かを計画し実践することを考えた。

#### (1) 多くの先生方と共有できるような授業

これまでの研究大会とは発想を変え、教科はもとより授業展開や題材が違う授業が望ましい。また、参観者が公開授業から新たな視点に気付いたり、自校において実践してみようと思える授業を目指したい。

以上の点を踏まえ、本大会では生活科、数学科、道徳の時間など、比較的新闻教育の実践が少ない教科で公開授業を実施する。

#### (2) 目指す子ども像と教育課程の位置付けを明確にした授業

児童生徒の価値観を新聞記事で考えさせることにより、自らの振り返りや社会全般と自分との関わりを考える等、児童生徒の思考が深まる授業を大切にしたい。

また授業がその時間だけの単発ではなく、系統性があり、意図的・計画的に指導計画を組み立てた授業を目指したい。

#### (3) 言語活動を取り入れた授業

「思考力・判断力・表現力」の力を育むため、新聞記事を読み取り、感想等进行交流する場面や、新聞づくり等を指導計画に意図的に設けている。これらの活動により、情報を収集・分析し、まとめた事柄や考え・意見などを発信することを通して、言語活動による学習活動を重視する授業を目指したいと考える。

また、新聞教育のための授業ではなく、新聞教育は目的を達成するための一つの手法であることを改めて確認したい。

#### (4)新聞を使った効果がはっきりと認識できる授業

授業で『新聞』を活用した成果が、「読解力」や「活用する力」として認識できることが大切である。授業実践した成果を授業者自らがはっきりと認識することにより、授業づくりへの意識を高め、そのことが質の高い授業づくりにつながるはずである。

また、授業を実践するにあたり、子どもの発達段階において無理のない記事を提示したり、子どもにとって出来るだけ身近な教材を用意するなどの配慮が必要と考える。

## 4 おわりに

北海道十勝新聞教育研究会は、創立23年目を迎えた。その間、平成7年に北海道で初の開催であった第38回全国大会、平成17年には二度目の第48回全国大会を帯広市で開催、十勝の実践を全国に発信し、各方面からご指導をいただきながら研究を積み重ねてきた。また、設立以来、実践重視の姿勢で活動を積み重ね、毎年開催している研究大会では、授業公開・研究協議・実践発表・新聞づくり講習会を実施してきた。昨年度は、大会主題に「『生きる力を育てる新聞教育』～言語活動の充実をキーワードとして～」を設定し、研究を推進してきた。

今年度は、新たに大会主題を「『新しい教育課程を創造する新聞教育』～思考力・判断力・表現力などを育成する授業づくり～」に設定し、研究の成果を広く交流していきたいと考える。前述した通り、北海道十勝新聞教育研究会では、会員相互の論議を通してピックアップした課題と理想とする授業像をいかに本大会で具現化し、全国に発信していきたいかを踏まえて授業を計画し実践発表を準備していきたい。

本研究大会における私たちの実践にふれ、新聞教育の実践者が一人でも多く増えることを祈念して本基調提案の結びとさせていただきます。

